

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500294		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム 新賀		
所在地	笠岡市新賀3220-25		
自己評価作成日	令和5年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500294-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500294-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和5年2月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切に、1人1人の希望を尊重したケアを提供いたします。」の理念を基にご本人様やご家族様の想いを受け止める様に、関わりをもつ姿勢を大切にしている。  
 コロナ禍でも、できることはないのか？一人ひとりに合ったケアはなにか？職員一人ひとりが担当利用者さんのことを考えられるようになってきた。そんな中、利用者さんが“綺麗じやな〜。器用に作ってん人がおるんじやな〜”と飾ってある“花くす玉”を指さした。その一言から“一緒に作ってみよう”と、作りかたを調べるところからはじまった。あまり自分から言葉を発さないUさん。完成させていくと同時に、Uさんの表情や他利用者さんへの関わり方が変わっていくのを目の当たりにした。  
 100歳を迎えたMさん。御家族様や、隣のGHの協力もあり、お誕生日会をすることができました。新賀の利用者さんでは、はじめての100歳のお誕生日を迎えられました。  
 今年は、庭の梅を収穫して、しそ梅を漬けました。少し硬かったみたいで、来年に向けて試行錯誤します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内の梅の木につぼみが付く頃、新賀を訪問した。この木に実った梅の実を収穫して皆で梅干を作っている写真もリビングに展示してあり、昔取った杵柄とばかりに共同作業に取り組んでいる利用者さん達の笑顔が印象的だった。今年度の目標は「もっと関わりを増やしていこう」であり、その目標を具現化した良い事例が、Uさんが花くす玉作りを通してどのように変わっていったのか、事例発表でもその過程が分かり易く紹介されている。日頃の関わりの中でその人が発した何気ない呟きに耳を傾け、思いを推し量ろうとする職員の気づきや感性がこのような成果につながったのだと思う。その他にも「祝百歳」のレクリエーション計画を立て、本人・家族の希望を見事に叶えた例もあり、開設以来個別ケアを大切にしてきたホームの方針は着実に受け継がれ、一人ひとりの希望を尊重したケアを提供するという理念も実践出来ている。利用者・家族・職員の笑顔溢れるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切にし一人一人の希望を尊重したケアを提供いたします」を理念とし、いつも見える場所に設置しており、その人に合ったケアができるように職員同士で考え話し合うようにしている。	今年度の目標は「もっと関わりを増やしていこう」であり、日常的にも一人ひとりの思いや希望を尊重している様子が活動内容や詳細なアセスメントシート等の記録、利用者に対しての取り組み方からも確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今まで地域サロンや同法人の老健や病院のイベントに参加していたが、コロナ禍のため、中止になったり参加が出来なくなったりしている。	もともと周囲に民家がなく立地的に地域との交流が難しい面もあったが、法人の敷地内には病院やケアハウス、老健、他グループホームなどの施設が複数あり、散歩の途中で出会った人達と挨拶や会話を交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人の老健で月に1度のリーダー会議に参加し、グループホームでの取り組みや出来事を議事録で提出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催していたが、コロナ禍になってからは行われていない。	3年前までは同敷地内にあるきのこグループの4つのホーム合同で運営推進会議を開催してきたが、今はまだ参集しての会議は開催出来ない。市への書面提出も免除になっているので、ホームの活動状況は2ヶ月毎に法人のリーダー会で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告や相談事は、その都度市役所に連絡したり訪問している。 市からも同様のことがあれば積極的に協力している。	コロナ下なので、運営推進会議も開けていない状況ではあるが、書類や運営に関する事、情報交換等、市の担当者とは些細な事でも何かあれば相談し連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の老健で開かれている委員会や勉強会に参加している。 身体拘束委員会で話し合った情報を共有し、身体拘束の正しいケアができているのか確認している。	定期的に身体拘束委員会で話し合っており、「緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・再検討記録」の記録用紙はあるものの、実際にはそのような対象者はいない。安全対策として玄関に感知式センサーを設置したり、必要に応じて所在確認をして見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人の老健で開かれている委員会や勉強会に参加し、虐待にあてはまることのないよう職員同士で話し合い、細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度の引き続きで、キャリア形成訪問指導にて「成年後見制度のつなぎ方」について、適切な支援に結びつけるための知識を持っておく必要性を改めて学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族に書類を見てもらいながら、解りやすい言葉で説明をするように努めている。不安な事や疑問点等がないか間に尋ねて理解や納得が出来るようにしている。また、御家族との相談内容は記録に残し、職員同士で情報共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会ができなくなってからは、3カ月に1回”新賀だより”を送り、生活の様子をお伝えしている。また、ケアプランを郵送した際には、ご要望のお手紙をいただくこともあるので、反映している。玄関には「ご意見ポスト」を設置している。	リモート面会、ガラス越し面会等ではあるが、面会時には家族と積極的に話し合い意見や要望を聞いたり、3ヶ月毎に各利用者の写真とコメント付きの「新賀だより」を家族に送っている。ご意見箱が実際に活用された事はないが、電話で利用者の様子は随時伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	正直、ミーティングを行っていない。申し送りや最近の様子から、どうしたら利用者さんにとっていいのか？気になることから話し、意見や提案を聞いて反映している。	職員が参加して話し合うミーティングは諸事情により出来ていないが、個別での話し合いは随時行っているため、必要な情報交換や共有は出来ており、管理者が職員からの提案や意見もよく聞いているので業務は円滑に遂行されている。	管理者と職員という形での一対一の話し合いはしているが、運営に関する職員間の情報共有や意見交換という観点からは、少なくとも定期的なミーティングが必要と思う。または、他のツール(グループLINE等)を利用した情報の伝達や共有を考えてみてはどうかと思う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働意欲を持って労働できるように利用者と一緒に職員も楽しめるイベントを計画したり、急な出来事もフォローしあえる関係性が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の老健やグループホーム協会からの情報から、職員1人ひとりに合った研修や勉強会に参加してもらい、介護に必要な知識や技術を向上している。その際は、研修ノートに記入して、他職員とも共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流できていないのが、現実である。同グループホーム間で定期的に部会(意見交流会)を設け、また、研修を受け入れて意見交換を図り、ケアの改善に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の状況について情報を入手し、生活リズムを崩さないようにしている。入居時には本人の想いを気かけ、出来るだけ不安を感じることがないように寄り添い、声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時において御家族に対して不安な点や要望などを聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の性格や日々の過ごし方、要望などの情報を本人または御家族から聴き、また専門職としての所見も交え、利用者さんや御家族に支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴボウのさがきや、布を切る・縫う作業、昔ながらの漬物や切り干し大根などはスタッフよりも頼りになる。また利用者さんへの感謝の言葉も伝え、利用者さんに介護される方の関係ではないことを認識してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様は利用者さんを一緒に支える大切な存在だと捉えている。利用者さんの状態や変化に応じ、こまめに連絡をして協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会に制限はあるが、面会時には双方にとって素敵な時間となるよう、環境づくりに配慮している。	Mさんと家族にかけがえのない思い出を作ってもらいたいと、「祝百歳」のレクリエーション計画を立て、隣のホームの茶室で家族だけの時間を過ごしてもらったと聞いた。コロナ禍で面会制限が続く中でも、模索しながら素晴らしい支援をしている職員の思いやりで温かい心を感じた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の価値観などを大切に、利用者同士の相性なども気かけながら必要に応じて職員が間に入り関わりが持てるように働きかけている。1人で過ごしたい場合もその時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても気軽に立ち寄って頂ける御家族もいる。また必要に応じて相談できる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの状態の変化や何気ないひと言を大切にしている。また御家族様の要望も聴く機会を設け、利用者さんや御家族さんが安心して暮らせるプランを検討している。	「もっと関わりを増やしていこう」と目標に掲げた通り、ある一人の利用者の言葉にならない眩きを見逃さず耳を傾け、その人の本当の姿、心の内を見つめ直すチャンスにして、じっくり関わった結果、心の変化につながり表情が明るくなったという事例もあった。	「くす玉作りを通して聞けた〇〇さんの言葉にならない眩き」と題して事例発表した職員の原稿を読ませてもらった。何気ない眩きを見逃さない気づきや感性はとても素晴らしいと思うので、更なる取り組みに期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人生歴”シート”を用いて、利用者さんや御家族さんからの情報収集を日頃より意識している。知り得た情報をスタッフ同士共有しケアへ反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子、最近の様子、ここ数カ月のご様子を日頃より職員同士で話す機会を設け記録し、その時点での利用者さんの状態を正確に把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんがいま困っていること、望んでいることを日頃の様子や会話等から把握するよう努めている。またそれを御家族様や職員で話し合い現状に即しながらも、よりよく暮らせるようなプランづくりに精進している。	半年毎に更新しているアセスメントシートは詳細でその人の状態がよく分かり素晴らしい。「どう生きたいか」「どう生活して欲しいか」という利用者や家族の意向がプランにもよく反映されていて、その人らしく暮らし、精神面・心理面の「心のケア」に重点を置いたケアプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の過ごし方や気づき等、ケアプランに必要な情報を介護記録に記入し、職員間で情報共有しながらケアプランの作成や実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりを通して利用者さんや御家族様の想いを大切に、必要に応じて同法人の老健や病院、市に相談することで、サービスの多機能化を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源は難しいところではあるが、市や地域と連携がとれるように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の主治医の診察だけでなく、変化があればすぐにエスポアール病院に連絡ができる環境で、当番医にも相談できる体制になっている。	「きのこエスポアール病院」の理事長先生や他の先生方がそれぞれの主治医であり、往診記録簿もある。また医療連携で老健の看護師の訪問もある。病院が同敷地内にあり、緊急時対応を迅速にもらえるので安心であり、医療と介護の連携体制が万全である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	エスポアール病院・同法人の老健から週1度の訪問・同グループホームの看護師がおり、利用者さんに変化があればすぐに報告・連絡・相談ができる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には、御家族様や医療機関と連絡を取って話し合い、情報交換を行っている。情報提供書を作成し、情報を医療連携と共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者さんの状態と、御家族様の要望が、施設で対応できる範囲内であれば、看取りをおこなっている。いまできることや、利用者さんの想いをくみ取りながら、御家族様の要望も大切にし、話し合いを重ねていきたい。	これまでホームで看取りをした例はあるが、この数年間は看取りをした事例はないし、今はターミナルの人もいない。この1年間は利用者に変化はなく、昨年暮れに100才を迎えた人も元気に過ごしている。今後も本人・家族の希望に添いながら出来る限りの支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、落ちついて対処できるようにマニュアルを作成している。応急手当は、看護師にすぐに連絡をとり指示をもらって行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のため避難訓練は、机上訓練を行っている。災害時の対処等、職員同士で話し合い確認している。災害用のガスコンロ・水・食事等の備蓄は常備している。	年2回の避難訓練は行っているが、以前のような合同訓練の実施ではなく、机上で防災マニュアルの確認、避難経路の確認、通報装置の操作、消火器の使い方等をシュミレーションしている。また、災害時用に3日間程度の食料品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さん一人ひとり、誇りや想いが違うので、プライバシーを守れるように、声かけや介助を行うよう努めている。	コロナ下で外出が出来ないので、ホームの中で利用者の思いを聞く機会が増え、一人ひとりと話す時間が長くなり、思いに寄り添えるという思わぬ効果もあるが、会話の中ではプライドを損ねないように言葉遣いに留意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんとのコミュニケーションのなかで見えてきた想いや願いを、実現できるように努めている。時には、御家族様に協力をお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢を重ねるごとに、その日の過ごし方が変わってきているように思える。起きている時間より、寝ている時間が増えてきたかたには、主治医に報告し薬を調整してもらい、起きた時間に食事提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さん好みの服を着ていただいている。入浴の際には、一緒に服を選び、季節感も感じてもらう。また、訪問美容も3~4か月に1回は行ってもらい好きな髪型に切っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	"最後まで口から、好きなものを好きなだけ、食べる"を大切にしている。行事食や、お誕生日メニューは利用者さんと一緒に考え、決めている。また、御家族様にも好きな食べ物や、お誕生日メニューなにを作られていたのか？など、ヒントももらっている。	今日はちょうどお誕生日の人がいて、いつもより華やかな食卓の光景だった。本人希望は握り寿司や巻き寿司が多いとの事。職員手作りがこのホームの伝統であり、食べる前から五感を刺激する。裏の畑で採れた野菜の生薬や食事の下拵えも出来る人はお手伝い。皆で囲む食卓は一段と楽しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から食事状況を気にかけており、利用者さん一人ひとりに合った摂取量を把握している。摂取量が少なければ本人の好みに応じて対応している。また食事制限があるかたには、主治医や看護師に相談しながら、見た目が他者と変わらないように工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行えるよう声かけや介助を行っている。その際に拒否があれば、立ったタイミングや時間をずらして行っている。また入れ歯が合わなくなったり、虫歯になったときには御家族様に協力していただき歯医者に受診していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行いトイレで排泄できるように努めている。その際は他利用者さんに分からないように配慮している。	排泄が自立で布パンツの人は3名。紙パンツにパットの人はその人に合わせた種類や大きさを使用。各居室にトイレがあるのでプライバシーも確保でき、手すりや動線も工夫しながら排泄の自立支援に向けて声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活により、出来るだけ自然排便出来るように促している。レクリエーション等を行い、身体を動かしてもらい。個々の病状に応じて主治医・看護師に相談・診察してもらい、定期的な排便を促している。定期薬はすぐ確認できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はとくに決めていない。利用者さんのその日の体調や気分に応じて、入浴している。また”プータンタン”など昔からのお風呂の呼び方で入浴して下さる利用者さんもいらっしゃる。	基本は週2回～週3回で、100才の人は体への負担を考慮してシャワー浴にしているが、その他の人は湯船に浸かって入浴してもらっている。「お風呂」という言葉ではなく「プータンタンに行こう」と言うてくれる人もいるそうだ。その人に合わせた声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその日の体調や気分に応じて、休息を促している。気持ちよく寝られるよう、天気の良い日にはドライブや散歩・ひなたぼっこなど、レクリエーションで身体を動かしたり、歌会をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、説明書をいつでも確認できるようにしている。服薬の際には声掛けを行い、服薬後まで確認している。薬が変わった時は特に本人の様子を気にかけて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの意向を理解したうえで関わっている。本人のできる範囲でお手伝いしてもらったり、レクリエーションを行い、楽しんでもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にお花を見に行ったり、季節の変わりめには鯉のぼりを見にいたり、ドライブや散歩に出かけられている。また敷地内の散歩や、利用者さんの気分がのらないときには、ひなたぼっこをしている。	初詣に行ったり、車外には出られないがドライブに行き花見や紅葉見学、鯉のぼり見学等、四季折々の景観を楽しんでおり、少しでも非日常な生活を支援しようと努めている。法人の敷地内が広く、桜や梅、花壇には季節の花々が咲いているので天気の良い日は散歩だけでも日光浴・外気浴や気分転換になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持・管理は難しく、立地的にひとりで買い物に行ける環境にないため、希望があれば車でスタッフと買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があれば都度対応している。言葉が出にくかったり、話せない時はスタッフが間にはいり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾にすることで、季節を感じられるように工夫している。時には利用者さんと一緒に採った植物や、一緒に折った折り紙も飾っている。また室内の温度や湿度・明るさなどの調整に気をつけている。	1階、2階にリビングのスペースがあるが、殆どの人が1階のリビングで余暇活動しながら日中は一緒に過ごしている。今日はAさんの誕生日パーティーが行われ皆でお祝いをした。テーブルの花瓶には菜の花が飾られ、玄関にはお雛様。季節感もしっかり感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、雑誌をみながらおしゃべりしたり、カードゲームをしたりして過ごしている。またひとりになりたいときには、自由に居室に戻ることもできる環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様の写真や手紙・絵はがきなど、見えるところに飾ったり、馴染みのあるものを置いている。室内の手すりやベッドの位置も一人ひとり身体状況に合わせて配置している。	どの部屋も日当たりが良く清潔で整理整頓されており、職員の手が行き届いているのがよく分かる。毎日畳に布団を敷いて臥床するBさんは「ずっと家でも畳の生活だったのでこの方が落ち着く」と笑顔で語ってくれた。レイアウトや家具等を見ても、家族の愛情がいっぱい感じられる居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りになっており、安全面に配慮している。エレベーター完備であるが、階段で降りたい方は階段で下りてもらうなど、残存機能に配慮している。		